埼玉大学紀要　教育学部，58(2)：145-157（2009）

モンゴルにおける日本語学習者の現状と課題

ダンザンニャム＝ブレンチメグ*・馬場　久志**

キーワード：日本語教育、モンゴル、学習者の意識

1．モンゴルでの日本語教育の背景および到達点

（1）日本語教育の広がり

モンゴルでは1975年に公式的に日本語教育が始まった。モンゴル国立大学言語学部モンゴル語学科の学生から毎年３－６名が選ばれ、選択科目として日本語を学習していた。

1980年代は、日本語を学習する人はまだまだ少なかった。その理由の一つは日本語を学習しても職場がないということであったと考えられる。1990年代の民主化の影響で、国際コミュニケーションを目的とした外国語能力が指摘されるようになったため、多くの大学が日本語講座を設定し、日本語を教え始めるようになり、次第に日本語を学習する人が増えてきた。彼らの学習理由の一つには、やはり日本語は難しいから勉強したいということがあったという。もう一つの理由は、当時日本語を専攻にする人が少ない中で、他人の知らない外国語を知るという好奇心で専攻にしたという人たちもいたといわれる。

21世紀に入り、日本語を専門・専攻として学習する人が急速に増えてきた。日本とモンゴルの友好関係が益々発展していることにより、日本語を教えるのは大学ばかりでなく、中等学校、小学校、幼稚園から教え始める所も増加し、日本語コースが年々増えているのが現状である。

モンゴルでは、外国語学習はその人の財産であり、言語能力がないということは個人として不利であると言われる。そのため、広い教養を身につける目的で学習する人も年々増加している。

2007年にモンゴル日本教師会が行った日本語教育機関調査によれば、日本語教育全機関数は90ヶ所にわたる。その90%が、首都ウランバトール市に位置している。日本語学習者のうち、大学生は5452名、中等学校生徒5304名、その他の者が1968名である。日本語教師数は317人で、そのうち64名は日本人教師が占めている。

モンゴル全人口約250万人のうち約200人に１人にあたる12724人が日本語を学習しているということは、大変に大きな動きであり、筆者ら日本語教師にとってはいっそう責任の重い状況となっている。

表１は2003年に行われたモンゴルの日本語学

表１　日本語を学ぶ理由（黒澤・ブレンチメグ、2004）

日本語通訳・ガイドになりたい	40%
日本で働きたい	21%
日本人とのビジネス	７%
日本語に興味がある	22%
その他	10%

* モンゴル文化教育大学、2009年３月まで埼玉大学招へい外国人研究者
** 埼玉大学教育学部教育心理カウンセリング講座

習アンケート調査である。

表から分かるように、通訳やガイドになりたいという希望の学習者が40%も占めている。この10数年間、モンゴルの観光産業は盛んに発展している。国立大学や私立大学が日本語観光コースを設け、大学１年生から日本語を必修科目として教えている。経済的利益を考え、日本語教師コースよりも観光日本語コースを選択する学習者が多い。

（２）日本語学習者の動向

だが日本語を学習する人が増えるにつれ、また社会の変化に伴い、日本語学習者の意識にも従来とはちがう傾向が現れ、日本語学習者の事情は急速に変化しているのではないかと考えられる。そのため、最新情報を得る必要がある。そこで、2008年にモンゴルにおける日本語意識調査を行った。

調査の目的および方法と調査内容は、次の通りである。

a．目的：モンゴルにおける日本語学習者の日本語に対するイメージ及び日本語学習における問題点を明確にし、それに対する教師との関わりの重要性及び学習者の動機づけを検討する。

b．対象者：モンゴルで日本語を学習している277名の大学生

c．実施時期：2008年４月～５月

d．方法：日本において学習意識に関する質問紙調査を日本語で作成し、複数のモンゴル人による調整を経たモンゴル語に翻訳した。この質問紙を用いて、日本語教育コースをもつモンゴルの複数の大学の協力を得て調査を実施した。

e．質問内容の概要：（詳しくは末尾付録を参照）

１）日本語学習の理由
２）現在の日本語能力
３）日本語学習歴
４）日本語の難しさ認知
５）日本語の難しい分野
６）学習したい日本語分野
７）日本語発話能力
８）漢字理解力
９）必要とする教材
10）学習態度・希望
11）学習への夢
12）好きな外国語
13）理解できる外国語
14）学習中断思慮
15）卒業後の学習計画
16）日本語メール要望
17）学習してよかったこと
18）学習意欲
19）試験への好悪
20）望ましい試験頻度
21）授業頻度
22）好きな教員像
23）独学方法
24）家での学習時間
25）学外学習の有無
26）目標級

表２　調査回答者の内訳

（人）

大　学　名	１年生	２年生	３年生	４年生	合　計
モンゴル国立大学	20	26	20	0	66
文化教育大学	21	22	22	3	68
イフザサク大学	20	24	20	6	70
人文大学（外国語）	20	20	20	13	73
合　　計	81	92	82	22	277

27）日本語への印象

今回の2008年調査は、上述した2003年調査（黒澤ほか、2004）とは複数回答を認めるなど質問方法が異なるので、単純な比較はできない。しかし、通訳・ガイドなどどちらかといえば国内で日本語を活用するという動機よりも、仕事や学校やその他の目的も含めて、日本に渡って日本語を使い生活を営むという理由により、学習に望む人がまとまった数として存在するということは、いえるであろう。それよりも、日本語自体への興味から日本語を学習したいという学習者が増加している可能性が注目される。表３に直接示されている35%の回答の他に、日本語学習のための留学や日本文化に触れるための渡日もこうした日本語への興味から結びついているならば、これは意義の深いことだと考えられる。

あなたにとって一番好きな外国語は何語ですか。という回答に対して54%を日本語が占めている。

一番好きな外国語は日本語と答えた学習者は半数以上を占めている。つまり他の外国語と比べても、日本語が特別に位置されていることを示す。日本語学習の理由については、この数年間で変化が見られ、留学のために必要と考える人が増えている。もう一方で日本のドラマやスポーツ及びモンゴルでの日本語教育の普及により日本語に興味を持つ学習者が増え、それと共に日本とモンゴルの友好関係がますます発達し、それにつれて日本語に興味を持つ人々が年々増加していると言える。上記のデータでは、日本語自体が好きな学習者は54%を占めていることは、モンゴルでの日本語学習者は日本語に対する好奇心、あるいは向上心であり内発的学習意欲が強いと考えられる。一方、先生が好きですから日本語も好きだという学習者が31%を占めていることからは、日本語学習動機は人間関係が動機になっているということがうかがえる。外発的学習だけでなく内発的学習動機も影響していることが明らかである。

表３　日本語を学ぶ理由（複数回答可）

通訳になるため	65（23%）
日本の企業で働くため	39（14%）
日本に行くため	89（32%）
日本の学校に進学するため	105（38%）
国内の日本企業で働くため	37（14%）
日本語自体に関わる理由	97（35%）
その他	23（ 8%）

（３）日本語教育の現状および研究課題

日本語を学習する大学生は、日本語能力についてある程度はできると積極的な感じをもっており、その程度は学年とともに向上している。図２、図３はそれぞれ発話と聴解についての結果が示されている。どちらも半数を超える学生

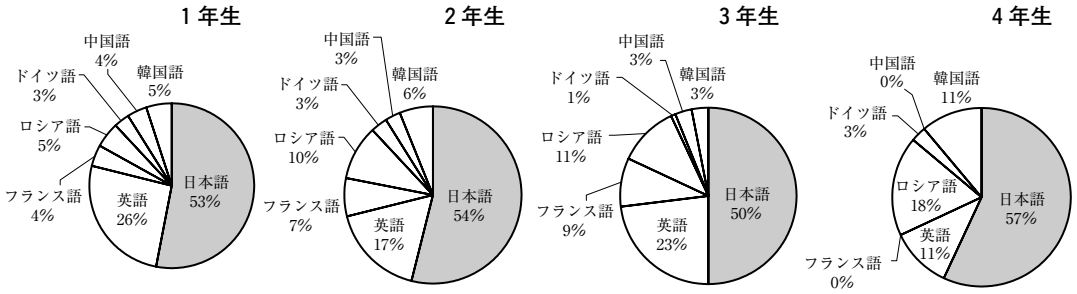

図１　一番好きな外国語

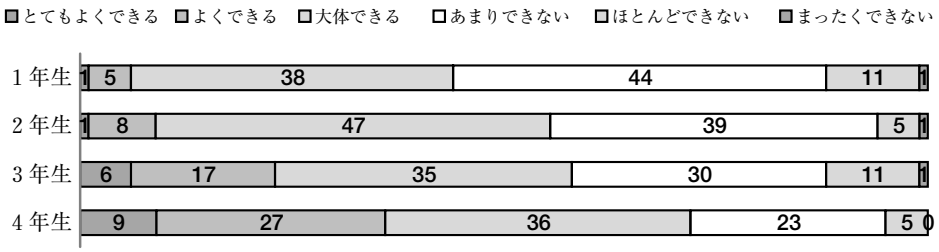

図2　日本語で話すことがどのくらいできるかの回答分布（%）

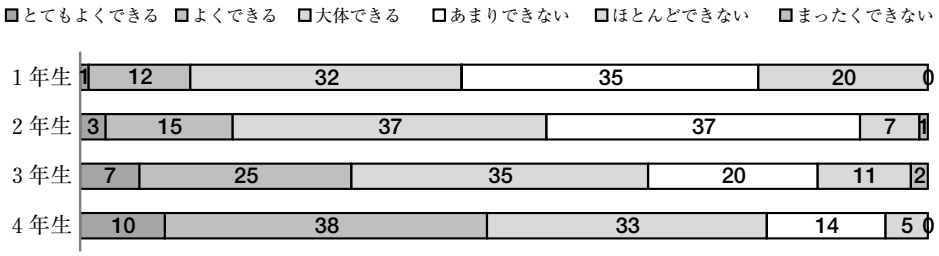

図3　聴いて理解することがどのくらいできるかの回答分布（%）

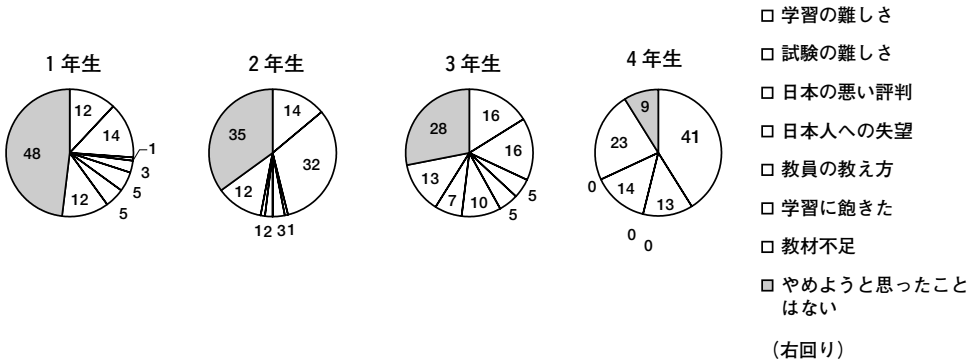

図4　学習をやめようと思った理由

はある程度できると感じている。

しかし、モンゴルにおける日本語学習者意識調査の質問「あなたは日本語学習をやめようと思ったことがありますか。あるとしたら、どんな理由でそう思うようになりましたか？」という質問に対し、何らかの理由でやめたいと思ったことがあるという回答から、18%の学習者は試験の難しさでやめようと思ったことがあるということが分かった。

試験の成績は良くないということは、おそらく「勉強が分からないからである」と考えられる。勉強が分からないから、落ち込んだり、自信をなくしたりそれにより学習意欲が低下する傾向がある。勉強が分かるようになるために自分自身がどのように学習を取り込んでいけばいいだろうか。学習における教師依存心が強いほど自ら学習しようとする学習傾向が低下し、自分一人では学習や予習もできなくなることがあ

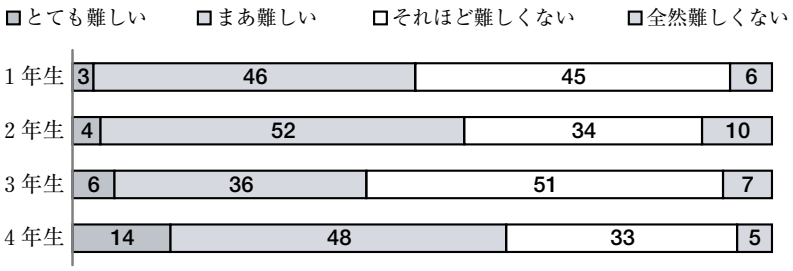

図5　日本語は難しいか（%）

り得る。問題の解決のために定期的に教師にアドバイスもらうことは学習者には欠かすことのできない大切なことであると考えられる。

モンゴルにおける日本語意識調査の質問「あなたにとって日本語は難しいですか」という質問に対しては、大学4年生の学生の48%が「まあ難しい」と回答した。

図5から分かるように、日本語学習は学年が上がるとともに日本語がだんだん難しくなってくる。学年が上がるごとに学習課目も増加し宿題及びテストも増えてくる。「日本語の何が一番難しいですか」という質問に対し、49%が漢字と答えた。非漢字系のため、モンゴルの日本語学習者にとって漢字の学習は大変難しいと言っても過言ではないだろう。つまり日本語の学習は漢字の学習であり、文字語彙の学習である。日本の新聞、雑誌の90%を漢字が占めている。例えば日本留学試験及び日本語能力試験で、文字語彙、読解の漢字が分からないと、合格は困難である。学習者は漢字学習及び会話の学習を求めていることが調査から示唆されている。また漢字や会話の学習方法につき、有効な学習方法が求められている。

2．学習者にとっての日本語学習

（1）学習者の直面する問題

日本語の学習を開始した頃は日本語が面白くてたまらない、幸せで一杯である。学年が上がるほど日本語がだんだん難しくなるにしたがい、クラスの少数の学習者が学習に追いつかない、日本語学習に対する意欲が低下しているというケースも出て来るに違いないだろう。

いきなり、日本語が嫌いになり、日本語学習をあきらめることはあり得ない。学習が嫌いになるということは、あくまでも学習法及び勉強が分からなくなり、また自分自身が学習を放棄したため失望感が生じ、学習意欲が減退していると考えられる。これに対しては学習を単なる授業における日本語学習としてとらえるのではなく、日本の文化による物のみかた、感じ方、考え方を学んでいくことができれば比較的に速く学習意欲が沸いてくると考えられる。

それは日本の音楽であり映画ドラマ、日本の茶道、着物、舞踊、漫画、歌舞伎でもかまわない。一番肝心なのは、好奇心やそれに対する深い興味を持つことにより満足感を得られ、日本語にも次第に興味を持つようになると言える。授業をとるというだけの外発的動機に結びついた日本語から、教師や関係者の工夫により、より根源的な興味関心をもつ内発的学習動機に変化することである。学習に心理的な満足を受け入れる場合のほうが、上達が速いと考えられる。

日本で日本語を学習するのと比べて、外国で日本語を学習する場合には大きな差が出てくる。つまり日本語の環境が必要とされている。外国で日本語を学習している学習者にとって、毎日日本語で話すチャンスが少ない、日本語の授業も限られているとの事情が考えられる。海外で日本語を学習している学習者はどのように毎日

日本語にふれることができるか、それが問題である。海外で日本語を学習している学習者にとって何よりも耳に日本語がなれてくるように、正しく発音ができるように毎日テレビのニュースをみるなり、日本語の歌を聞くなり、出来るだけそのような環境や雰囲気をつくって、直接的に日本語を受け入れることや、翻訳にたよらず本文に接して理解しようと努力することによって、正しい読み方、聴き取り方を身につけると考えられる。つまり出来るだけ生の日本語に接して、それを努力によって繰りかえし覚えていくことが非常に大切なことであると言える。日本に来て３、４年留学している学習者の中には、日本語がまったく話せないが、会話が理解できる留学生がいる。相手の話を母語に翻訳されると驚くほど正しく翻訳ができた。観察の結果、彼らは、話し手の言葉をすぐ母語に訳して、また母語で分かった言葉をまた日本語に訳する二重の作業を行っているので言葉がなかなか口から出ないことにより、対話に妨害を及ぼしていたと考えざるを得ない。

外国語学習には妨害になるものがもう一つある。それは「恥ずかしい」と思うことである。間違ったら、恥ずかしいと思いこむ気持ちは対話に大きな影響を与える。間違ってもかまわず話してみることは非常に大事である。相手が先生なり、同級生なり、その人自身の日本語が通じたことによる「よかった、日本語で話せたぞ」という喜びの気持ちが日本語の幕を開けると言えるだろう。外国語で話すということは悪いことではなく、恥をかくことでもない、それが現代と肩をそろって歩む証拠である。時代と共に進歩していることの証であると考えられる。

外国語学習というのは、教える方プラス教わる方が一体になった同時学習が成り立つと考えられる。外国語学習とは意識して学習することである、意識して学習しない場合は10年20年経っても日本語で話すことすらできないだろう。

教師が一生懸命に工夫して、教えていても、学習者自身が自覚して予習、復習しなければ学習には良い結果が得られないだろう。

今回のモンゴルにおける大学生向け日本語意識調査によれば、「毎日家でどのぐらい勉強しますか」に対して、２時間勉強すると答えた学習者は35％を占めている。

「ローマは一日に成らず」ということわざの通り、毎日勉強しなければならない。毎日の学習を積み重ねることは大事である。また毎日同じ時間帯に同じ場所に座って勉強することは有効な学習法であると言われているが、生涯学習の視点では、学習の場においては、どこでも、いつでも、だれでも学べるということである。とりあえず、自分の苦手である読解なり漢字学習なりに挑戦して行けば、また時間をかけて学習をこなし、学習維持をすれば驚くほど良い結果に出ると考えられる。誰でも自信を持って、実際に、自分のペースで一つ一つやりこなすことは一番重要なポイントであると考えられる。

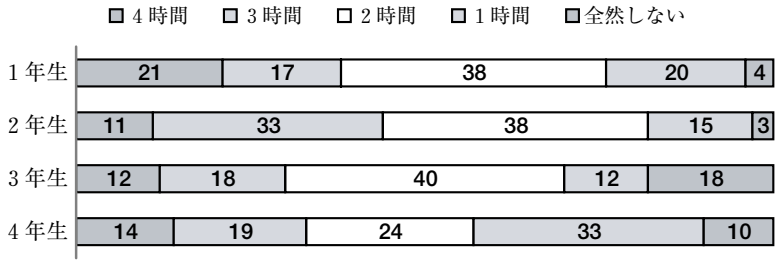

図６　家での一日あたり日本語学習時間（％）

（2）教師との関わり

教師たちの日本語に対する熱意は、常に日本語学習者に伝わってきて、学生は日本語を教えてくれる先生のことを心の底から尊敬し、次第に日本語も好きになってくる。

そして、初めて日本語の面白いさ、素晴らしいさが分かるようになる。友人に日本語の面白さや先生のことを自慢にすることにより、日本語教育の宣伝にもなる可能性があると考えられる。そして高校時代の同級生や周りの友人、親戚まで日本語を勉強し始めると思われる。モンゴルでの日本語教師たちの多大な努力と工夫により、今日１万人を超える日本語学習者が生まれているという点も見落としてはならない。

モンゴルで日本語を学習している大学生対象に行った「モンゴルにおける日本語意識調査」の回答者277名のうち「あなたは日本語を学習してよかったと思ったことがありますか、それはどんなときですか」という質問に対して、31％の学習者が「素晴らしい先生と出会ったから、日本語を勉強して良かったと思います」と回答した。

この回答から分かるように、素晴らしい先生との出会いから、日本語の面白さが分かるようになったと言えるだろう。

つまり、教師は学習者の親であり、友人であり、頼りであり欠かすことの出来ない大切な存在である。また親切で、寛容力のある先生の前ならば、いくら間違っていてもどんどんしゃべってしまうという学習者が多い。学習者に勇気を与え、そして学習者の話を素直に聞き入れてあげる教師が大勢いるからモンゴルの学習者が「日本語を学習してよかったと」思えざるを得ないだろう。教師のあり方及び役割は非常に重要であり、その役割は、学習者動機づけを高められると考えられる。

教師が学習者を励ますことの重要さは、日本の大学においても見られる。第一筆者が2007年度から共同研究の一環として参加し、観察と関与を行ってきた第二筆者のゼミでは、半年間かけて構想を練り、小学生と大学生に対する実験的な調査を試みた。その準備段階のゼミでは、毎週学生は調べてきたものを発表する。全員で発表を検討、討論し意見交換する。その授業および研究に対する学習者の熱意、発表意見や考え方を引き出すのは、教師の学習指導に対する熱意と学生は優先と考える責任感であったと感じられた。改めて教員の役割、存在の大切さ、学習者への動機づけは非常に重要であることが実感された。同時に、日本とモンゴルの教育は同じ点もあれば違う点も多いということが分かった。

３．学習意欲に必要な心理学的援助について

人間は何か物事に集中すると眠っていた能力と才能が目を覚ます。学習や行動も積極的になってくるに違いないだろう。ただし、それは期限付きである。燃えている熱意がいろいろ事情によりどこかで冷めるからである。それでも人間の発想は無限である。無限な発想及びパワーのある発言を有効に使いこなすコツを学習者に伝えることがこれからの学習動機づけにも関連があると考えられる。

（1）褒めることの大切さ

モンゴル人は昔から赤ちゃんは神様の恩恵だと考えてきた。世の中に多くの家族があるのに、我が家を選んでくれてありがたいとありがたく思う人が一般的である。

それと同様に、世界中にたくさんの言語があるのに、日本語を選んでくれて、しかも好きになってくれた学習者への感謝の気持ちを常に忘れず、「お母さん」として、先生として、そして優しい日本語で「よくできましたね」「よくがんばったね」と褒めた一言で、学習者の胸が熱くなり、「もっと頑張ろう」と決意するようになる。学習者は先生に褒められるのが、みんな大好きである。

人間は褒められるためにこの世の中に生まれ

てきたといってよい。褒めることは相手を評価していることである。学習者のほんの少しの進歩、ほんの少しの努力を先生として心の底から褒めてあげることは学習良薬だと考えられる。また学習者の成績は教師自身を評価しているということでもある。

（2）学習者との接し方における学習動機づけ

筆者が教師として関わった事例を報告する。

モンゴルで日本語教師として、いろいろな経験をしてきた。

大学入学の新学期は、日本では4月だがモンゴルでは9月である。9月1日は新しい新入生と会う日、つまり初めて日本語の導入ということで、また最初の授業は今後の日本語学習と大いに関係あるため、大変に緊張する。

クラス27名のうち、一人の男子学生は本当に少しも勉強しない学生であった。

分からないことを全て最初から教えた。授業の進度はやや遅いほうだったが、まじめにやってくれた。

聴解の授業で、一問一問で問い合わせていく、少なくても2、3回繰り返して聞かせる。聞き取れた学生のメモを回って見ているとき、彼は最初の2問を聞き取れていた。それ以後、全クラス27名中、彼はよく聞き取れ、クラスのトップになっていた。そのきっかけで他の科目の成績も少しずつ上ってきて、それ以後大学4年間ずっとまじめに学習に取り込んで優勝な成績で大学を卒業し、また日本の大学を受験して留学した。

また、もう一人は、クラスでよくできていた学生がいた。彼はいつも一番前に座って熱心に学習するほうだったが、急に日本語の授業ができなくなって、試験にまで落ちてきた。いつの間にか彼は後ろに座って勉強していたので、不思議に思ったことがあった。

学習者一人一人座っている場所があり、それが変わったときは、学習する心理状態に何か起きていると考えられる。居場所の確認の重要さも分かった。

また、よくできる学生にたくさん質問しないように、あまりできない学生には時間をかけて回答を聴くことは非常に重要で、それを心がけてバランスをとることが授業者に求められている。

教えることの意味および学習することの意味を考えると、一人の学習者が実際の生活の中や仕事の場で自分が使う言葉、自分が聞く言葉について力をつける必要がある。自分が言う一言が相手に伝わるかどうか、そこに問題がある。教師の一言が学習者に希望を与え、自分のことを心から心配し、必死に考えてくれる先生には数多くの学習者が救われ、明るく人生の道を歩んでいく勇気を十分受け取れた学習者は将来、自分自身も先生と同じように他人に希望、勇気、パワーを与える広大無辺な人間になりたがるということがうかがえる。教育とは、知識を与えること以外、人間のあり方を教えることでもあると考えられる。

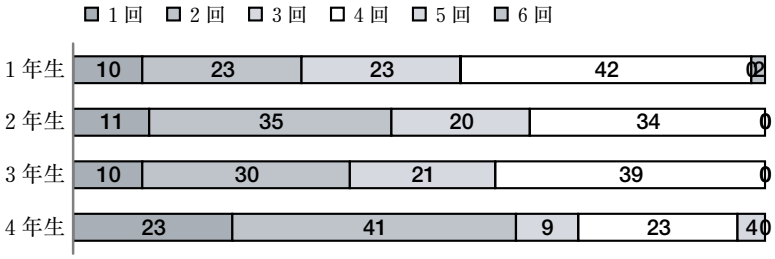

図7　1か月に何回テストがあるのがよいか（%）

（3）評価方法および評価基準

教えたことが学習者に伝わったかどうか評価をするためには、確認のためのテストをする必要がある。モンゴルにおける日本語意識調査での「あなたは試験が好きですか」という質問に「はい」と答えた学習者は66％を占めている。

また、「一ヶ月にどのぐらいテストをとればいいと思いますか」という質問に対して２回と答えた学習者は33％、３回と答えた学習者は19％、４回と答えた学習者は35％を占めている。

４回と回答した学習者の半数は大学１年生の学生である。日本の学生と比べてモンゴルの学生は試験が好きなのであろう。１週間に１回小テストを行うことにより、学習者には刺激を与え、より学習目標が見えてくるのではないかと考えられる。

４．結論および今後の展望

日本語の学習を重ねると、日本語に対する印象も変わってくる。表４は最も近い印象を一つ回答してもらった結果であるが、入学時の「美しい」という憧れのような印象から、学年が進むについてて「親しみがある」という身近な印象へと移っていくのは、興味深い。また少数であるが、「固い」から「柔らかい」への移行もみられる。日本語自体への印象は、学習の進行につれて好ましさを維持向上させているようであり、これに対応して、学習動機づけを高める可能性は広がっている。

学習者に日本語学習動機づけは非常に大切で欠かせことができないと考えられる。日本語学習を始める時の動機づけは様々なものがあるが、授業における心理的学習援助及び理解援助から、日本語学習はより効果的な目標にたどりつくのではないかと考えられる。

日本語学習動機づけは、単に学習自体に限られた動機づけではなく、現在の充実感、将来への期待や人格形成などにわたって幅広い面で学習者の抱えている問題と連動するものであり、学習者の自己実現の問題として考えられるべきものであろう。

日本語は世界にない素晴らしい音楽で、とても綺麗な言語である。綺麗という言葉遣いは不自然な表現かもしれないが、「綺麗な日本語」と言わずにはいられない。言葉では、表現できないエネルギの吸収している言語だと考えている。このような綺麗な言語をモンゴルそして世界中の若者に教えることにより、これから多く日本語に魅力を感じる学習者が数多く生まれてくるに違いないだろう。モンゴル及び世界中の日本語教育界に役に立つ後継、日本語に忠誠な後継を養成していくことに注目し研究を発展させる必要がある。今後の日本語教育をさらに先に進めるために何をしていくべきか、まずは、教師は学習者の現状と問題点を把握し、その解決策として課題への具体的な方策を考えていくべきだと考えられる。大学に入学し日本語を専攻として学習するモンゴル人学習者が年々増え、それに伴い、学習者をどう支援するかの問題も新たに生じてきている。モンゴルでの日本語教育には、これまで日本語学習に関する教授心理学および学習心理学があまり生かされていない。日本語学習には、教授法だけではなくて、不十

表４　日本語に対する印象（択一回答）

（％）

	美しい	親しみがある	難しい	簡単	豊か	固い	柔らかい
１年生	43	8	26	3	8	9	3
２年生	38	9	18	3	23	3	6
３年生	31	17	21	5	16	2	8
４年生	18	18	30	4	19	0	11

分な学習者あるいは授業に追いつかない学習者には、心理学的支援も必要である。

外国語学習には、心理学的援助が非常に大切である。外国語学習支援は単なる教授法の問題ではなく、学習者一人一人の学習情報及び問題点を把握し、それに沿った学習動機づけをつけることは、これからの日本語教育界の大きな展開であると思われる。

その心理学的援助には、学習動機づけの向上をはじめとする学習者の抱えているさまざまな問題への対応があると考えられる。学習者が日本語学習とそのための授業において学習動機づけを高めることは、日本語学習および日本語に対する意欲の向上にむすびつく。

また、学習者一人一人の「不安」は何なのか、学習者心境や考え方に注意をはらい、不安を聞くことにより、学習者と教師の間の強い絆も生まれると思われる。授業に遅れている学習者、難しさのため学習が嫌いになる学習者、人間関係の問題のために学習していた外国語をあきらめようとしている学習者、いろいろの事情でその言語、その学習をあきらめる傾向が予想される。

学習段階では何が一番重要だろうか。学習最初の段階は非常に大切であると考えられていることは、やはり外国語学習には「いけそう・面白い・まあ大丈夫」と学習者に思考させる能力を与えること、これに沿って授業及び教え方を変えて行く必要があると考えられる。

教師は常に、日本語、あるいは日本の文化に対して上記の言葉を繰り返して日常使用することにより、学習者は親しみの感じを受け取る。好き嫌いはともかくとして、まず自分の選んだ外国語だから、その国、文化、人々に対して優しいことばで話されると癒される。学習動機づけには、教師の役割が非常に重要であると考えられる。教師自身が日本語教育、日本の文化あるいは日本に対する熱意があること自体が、日本語学習への直接的な動機になると考えられる。動機づけは、学習過程において何度も繰り返される。これを教師がなすことで、高い学習効果が得られると考えられる。学習動機づけは、学習者をどのように授業に積極的にさせるか、学習者をどのように日本語に興味を持たせるか、授業中会話それ自体をどれぐらい増やすべきか、学習者全員にどのように気を配るかなどさまざまの場面でその向上の機会があるものであり、これらを実際の授業に応用し実践していく工夫をすることにより、よりよい面白い授業ができ、また面白い授業それ自体がさらに学習動機づけの強化因になると考えられる。

つまり、上述したように、学習者の不安や問題点の源の探究及び関係者の適切な対応を行うことにより、学習動機づけを高めることのできる学習環境を作成する必要がある。なるべく、問題を抱えている学習者と丁寧に接して、学習上の不満や問題点に耳を傾けてあげることは学習者が求めているはずである。

特にモンゴルでは「先生を尊敬できない人間は一人前にはなれない」という教えがある。モンゴルでは、学習者だけではなく、一般人でも教師の職業を尊敬する民族である。

学習者にとって、教師および先輩の一言は無限な力をもっており、教師からの褒め言葉により学習者の自信が高められ、日本語で全然話せなかった学習者が堂々と話せるようになり、嫌いなことが好きになれる。教師がパワーを付与するかのごとくである。

文　献

黒澤きみこ・ダ･ブレンチメグ『日本語で学ぶ日本語』2004年

付　録

モンゴルにおける日本語意識調査　2008年

(2009年３月31日提出)
(2009年４月17日受理)

モンゴル語質問紙（1）

Япон хэл сурч байгаа оюутануудын талаархи судалгаа

Анги: **Хэл:** **Нас:**

1. **Япон хэл сурч байгаа зорилго.**

-Япон компианд ажиллахын тулд -Японы их дээд сургуульд сурахын тулд -Япон явахын тулд - Монгол дахь япон компианд ажиллахын тулд - Багшлахын тулд - Орчуулагч болохын тулд - Садан төрөл японд байгаа учраас - Япон хэлэнд дуртай учраас - Япон хэл сурсанаар имэжээ дээшлүүлэх - Японы хөгжим, кинонд дуртай учраас - Найзууд маань бүгд япон хэл сурч байгаа учраас - Аав, ээжийн хүсэлтээр япон хэл сурч байгаа

2. **Та хэр зэрэг япон хэл мэдэх вэ? (Доорхи хүснэгтийг бөгөлнө үү)**

	Маш сайн	Сайн	Дунд зэрэг	Тийм ч сайн биш	Бараг ойлгодоггүй	Юу ч ойлгодоггүй
Яриа						
Сонсгол						
Бичих						
Унших						
Мэдээ үзэж ойлгох						
Япон хэлээр заадаг хичээлийг ойлгох						

3. Хэр удаан япон хэл сурч байгаа вэ?

- 1 жил - 2 жил - 3 жил - 4 жил - 5 жилээс дээш

4. **Япон хэл хэцүү юу?**

- Маш хэцүү - Хэцүү - Тийм ч хэцүү биш - Огт хэцүү биш

5. **Япон хэлний юу нь хэцүү вэ?**

- Ханз - Дүрэм - Уншлага - Яриа -Зохион бичлэг

6. Заавал сурмаар байгаа хичээл чинь юу вэ?

- Ханз - Дүрэм - Уншлага - Яриа -Зохион бичлэг

7. Хэд дүгээр ангиасаа япон хэлээр ярьж чаддаг болсон вэ?

- Их сургуульд орохоосоо өмнө - 1-р анги - 2-р анги - 3-р анги - 4-р анги - Одоохондоо ярьж чадахгүй байгаа

8. Хэд орчим ханз мэдэх вэ?

-300 орчим -500 орчим -1000 орчим -2000 орчим -Ерөөсөө ханз мэдэхгүй

9. Япон хэлний ямар сурах бичиг материалтай болмоор байна.

- Дүрэм -Ханз Нэвтэрхий толь -Ярианы ном - Уншлага - Сонсолог

10. Өөртөө тохирсон хариултыг дугуйл.

	Маш сайн	Сайн	Дунд	Муу
Япон хэлийг чадварлаг эзэмшимээр байна.				
Япон хэлийг сурч мөнгөтэй болмоор байна				
Япон хэл сурч имэжээ өсгөмөөр байна.				
Япон хэл хэцүү учраас бүр сайн сурмаар байна				
Япон хэл сонирхолтой учраас				

11. Япон хэлийг сурсанаас хүйш Япон хэлтэй холбоотой ямар нэгэн зүүд зүүдэлсэн үү?

-Япон хэл сайн болсон - Ханзны тухай - Японд байгаа зүүд - Шалгалтаа сайн өгсан зүүд

12**. Хамгийн дуртай гадаад хэлнээсээ нэгийг сонгоно уу?**
- Япон хэл - Англи хэл - Франц хэл - Орос хэл - Герман хэл - Хятад хэл - Солонгос хэл

13. Та хэдэн орны хэлээр ярьж чадах вэ?
- Япон хэл - Англи хэл - Франц хэл - Орос хэл - Герман хэл - Хятад хэл - Солонгос хэл

14. Япон хэл сурхаа больё гэж бодож байсан уу? Яагаад тэгэж бодох болсон вэ?
-Хэцүү учраас - Шалгалтын дүнгээс болж - Японд гэмт хэрэг их учраас - Япон хүний талаар сэтгэл дундуур учраас - Багшийн заах арга дээрэнгүй үзлээс - Япон хэлнээс залхсан учраас - Сурах бичиг, толь, материал дутмаг учраас

15. Их сургууль төгссөний дараа Япон хэлээ мартахгүйн тулд юу хийвэл зохицтой вэ?
- Ном унших - Мэдээ үзэх - Багштайгаа уулзаж ярилцах - Дамжаанд орох - Юу ч хийхгүй

16. Япон хэлээ улам сайн болгохын тулд Японы их дээд сургуулийн хүүхэдтэй е-майлаар харьцах хүсэлтэй бол е майл хаягаа бичнэ үү.

. . . .

17**. Япон хэлийг сурсандаа сэтгэл хангалуун байна уу? (Тохирсон асуултыг дугуйлана уу.)**
- Телевиз үзэж ойлгодог учраас - Сумогийн яриа хэлэлгээр ихэвчлэн ойлгодог учраас
- Аав, ээждээ япон хэлээр ном уншиж өгсөндөө - Найзтайгаа японоор захиа бичдэг болсон доо
- Гайхалтай багшийн шавь болсон доо - Япон дотны найзтай болсон доо

18. Япон хэлээ сурсан шиг сурсан нь дээр гэж бодож байна уу?
- Тийм - Үгүй

19. Шалгалтанд дуртай юу?
- Тийм - Үгүй

20. Нэг сард хэр зэрэг их тест авсан нь дээр гэж бодож байна вэ?
- 1 удаа - 2 удаа - 3 удаа - 4 удаа

21. Долоо хоногт хэдэн удаа япон хэлний хичээл ордог вэ?
- 3 удаа - 4 удаа - 5 удаа - 6 удаа - 7 удаа

22. Ямар багшид дуртай вэ?
- Еелдэг багш - Хатуу багш - Дахин давтан зааж өгдөг багш - Найз шиг харьцдаг багш

23. Биеэ дааж хичээл яаж хийх ёстой вэ?
- Ном зохиол унших - Телевиз үзэх - CD сонсох - Дуу хөгжим сонсох

24. Гэртээ хэр зэрэг их хичээл хийдэг вэ?
- 4 цаг - 3 цаг - 2 цаг - 1 цаг – Ерөөсөө хичээл хийдэггүй

25. Их сургуулиас гадна өөр газар япон хэл сурч байгаа юу?
- Тийм - Үгүй

26. Та япон хэлний хэд дүгээр түвшинд хүрэхийг зорьж байгаа вэ?
- 1 түвшин - 2 түвшин - 3 түвшин - 4 түвшин

27. Япон хэлний талаархи сэтгэгдэл.
- Гоё - Дотно - Хэцүү - Хялбар - Баялаг - Хатуу - Зөөлөн

Энэхүү судалгааны ажилд
цаг заваа гаргаж гүн туслалцаа
үзүүлсэнд баярлалаа
Та бүхний ажил үйлсэд
гялалзсан амжилт хүсье.

Present Aspects and Problems for Japanese Language Learners in Mongolia

Danzannyam BURENCHIMEG and Hisashi BABA

Keywords：Japanese language education, Mongolia, cognition about learning

In Mongolia, Japanese language learners are increasing in number, in recent years. The purpose of the present study was to clarify the different cognition about learning Japanese from the past learners.

A questionnaire survey was completed by 277 university students in Mongolia. The results showed that many students have positive cognition about learning Japanese, but also they feel somewhat difficulty with learning. And they feel inconvenience due to the lack of good textbooks. These results suggest that it is important to develope good textbooks and to make praising and encouraging approach by teachers.